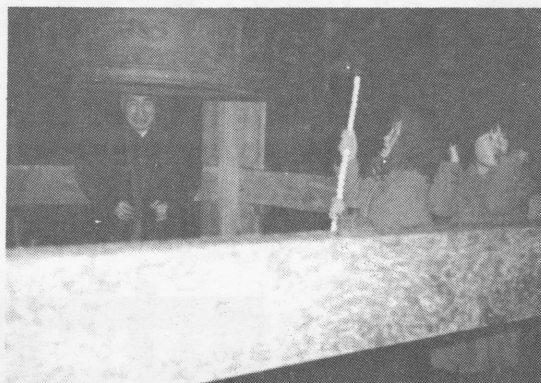


廣福寺だより

9 号



除夜の鐘

御恩御恩と鳴りひびく

る。赤々と燃えたぎるカガリ火を
囲んで談笑し次々に鐘をついてい
る中に、無常迅速、気がつくとき
計の針は午前〇時を過ぎている。

行く年来る年、人それぞれにひ
としおの感懐がある。六十年から
六十一年への年の瀬はアツという
間にやってくる。老いも若きも折
からの風雨をおして寺の門をくぐ

おめでとう、今年もよ
ろしく……清々しくあ
いさつを交わし合う。
昔からうけつがれたな
らわしの重みをかみし
めるひととき。ゴーン
と鳴りひびく鐘声を如
来様の御恩と頂くとき
新しい年への活力を全
身に受けとめる。向拝
で熱カんとコンニャク
をごちそうになり家路
へ、はや一時過ぎ。

3月9日
本山御布教
梵鐘講

午前10時 おつとめ
布教 滋賀県草津
小寺正弘師

正 午 おとき
午 後 余 興
午後7時 お初夜

皆様お誘い合
せ、お参り下さ
るよう御案内申
し上げます。

決定のこころを頂く

生くるもよし、死ぬるもまたよし

△窪沢泰忍師 報恩講御布教の要旨▽

報恩講は一年中で一番大事な寺の行事で一人一人が決定の心を頂いているかどうかを御



開山聖人から確かめて頂くのです。今も交通事故で亡くなられた方の葬式をすませてきたところですが、喪主の方が「今まで他人事と思ってきました。まさか自分のことになるときは……」と申された。災難、病氣、死……さて一風吹くとガタガタとくる。

この間も東京の貿易会社の社長が私を訪ねてこられた。東大出身のエリート、何不自由のない身分。ところがその奥さんがガンで入院し顔半分を切除、余命一年以内という。こんなことがあってもいいのでしょうかと何回もいわれる。のるかそるか仏法の話を三時間ほど。生きるもよし、死ぬるもまたよし、ここだ。この大安心がないと人間死にきれぬ。災難や病氣にあつていけない。絶対の弥陀が私に飛び込んでナムアミダブツという相對の名前となって如来様のいのちを下された。喚びずめに喚んで下されているのに私の業が深くて如来のいのちに目をさますことができない

いでいる。如来の光に照らし出されて掛け値なしの人間の姿にめざめさせて頂くのが後生の一大事ということ。私にかかり果ててナムアミダブツと名乗っていて下さったか、そうでありましたかと聞かえたままが信心となり信心決定の身の上となる。

二種深信の味わいは「うれし、はずかし」ということ。お念仏の中に私の日暮らしがある。親様の名をよぼうとするとき、人間変革私の活性化がおこる。人生長いだけが能ではない。弥陀の本願にめざめるのが大事、めざめない長生きは空しい。だれが裏切っても裏切らない親様と一緒に生活、わが身にとって一日一日大黒柱になって下さる。親様のフトコロ住まいということ。

昔、将来を嘱望された若い学究が二十七歳で亡くなった。日本の損失とまで惜しまれた原子物理学者の臨終に呼びかけをした。死の二日前に三首の歌をのこされた。

法の道ききおきし身のありがたやかかる大事にあふを思えば

み仏と共にいでたつこの旅は法の花咲く報土にゆくなり

往還の二相のことはりききぬれば我のつとめは更にぞ続く

死を超えて生きる力、決定のこころを頂いた大安心、先きの明るい人生の終わり方を味わえる歌で今も深い感動をよびおこします。

長岡市の婦人学級に招かれ「本当に大丈夫ですか」という題でお話をした。内容は御法義の話、最近お年寄りの自殺がふえている。

原因がわからない。全く衝動的な自殺、生活が裕福で表面幸せそうなのに人間の心がもろくなっている。お墓参りの時、最近の西洋ローソクだと風ですぐに吹き消えてしまう。和

ローソクには燃えたぎる活力がある。一風吹いても大丈夫、人間も同様で御法義を聞いて決定のこころがあるかないか。これがあると当たり前のことがありがたい。一日一日が新鮮な初事となる。九十七歳で亡くなられた曾我量深師は「初めて九十三歳になりました」とあいさつされた。やり直しのきかぬ人生、一日一日を大事にしましょう。60・11・7・8

△付記 寺泊聖徳寺御住職が間法五十年を記念して法話・講話テキスト「生かされて」を刊行されました。お参りの御同行に一部ずつさしあげましたが、特にお願いをして全門徒に配布することにいたしました。どうか御一読の上御縁を結んで頂きたいと存じます。

◎報恩講御布教を聴聞されたあるお同行から電話で「ケツジョウとは、どういう文字ですか」とおたずね頂きました。ようこそおたずね下さいました。間法はブンポウでなくモンポウと読むように、仏法の用語は一般に読みにくいことが多いようです。どうかお気軽におたずね下さるようお願いいたします。▽

追悼 平岡・武石両世話方

昨年十二月三十日、当寺世話方平岡豊七氏（麓二区）が急逝されましたが、二月二十七日、後を追うように同、武石児太郎氏（麓一区）が逝去されました。ここに門信徒の皆様とともに生前の御労苦をしのびから哀悼の意を表します。

合掌

平岡氏は昭和34年12月故林部俵寿氏の後任として世話方に就任され勤続26年余、当寺の復興、御遠忌、鐘楼再建等の大事業に尽力された功労顕著、温厚で聞法篤実、寺の行事には受付を担当、門徒に親しまれた。78歳。



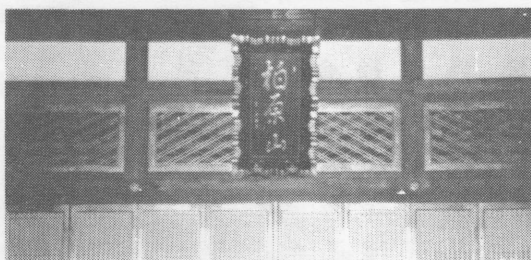
武石氏は昭和34年12月本多仁作氏の後任として世話方に就任され勤続26年余、平岡氏同様当寺の復興、大事業に尽力された功労顕著愛語の人として広く信望を集めた。76歳。

新墓地造成計画 在来の当寺墓地は、近年新規に墓を建てられる方が多く、余地が少なくなってきました。このため在来の墓地の西側に新墓地を造成する計画が今年の総代

会議にはかられ推進することになりました。雪消えを待って整地、実測の上区画をつくり計画を具体的に推進することになります。その段階でまたこのたよりでお知らせします。

菱組欄間塗箔の寄進

昨年の報恩講後、参堂された当寺世話方の



大谷統司氏（燕市）から本堂の菱組欄間の純金箔塗箔、並びに釘隠一式が寄進されました。工費六十七万一千円で施工は福井市の林大仏堂に依頼、昨年末完工搬入され年始の修正会のお参りまでに間に合いました。

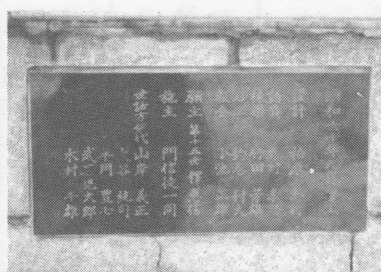
内陣格天井も 昭和28年本堂再建当時、普通の天張りで間に合わせてきたため外陣と不

〈短歌〉

観音寺 森田一美

風ぎ渡る海面にはつきり佐渡の島見ゆる渚を
ゆっくり歩く
蜷に目覚めてきこゆこの宿の笥を落つる池の水音
春の陽の斜に射し来る厨なりのそりのそりと猫はいでゆく

つりあいとなっていた内陣格天井が、これも同氏の御寄進で目下工事中、お荘厳の面目一新、まことにありがたく御同慶の至りです。



鐘楼の銘を刻む

昨年九月の鐘楼落慶法要のとき参堂された門徒の皆さんから銘を刻んでほしいとの強い要望があり早速世話方会議で検討し十一月の報恩講までに次のよう

な銘文を刻んだ銘板をつくりました。

「昭和六十年九月竣工 設計 柏原恵行 請負 隼野孝之 棟梁 竹田芳雄 石工 釣巻利夫 板金 小池正雄 願主 第十五世釈恵信 施主 門信徒一同 世話方総代 山岸義正 大谷統司 平岡豊七 武石児太郎 木村三千雄」 石材 印度産黒みかげクンナム、施工は吉田町武石石材工務店、工費十万円。

当院の長女出生 当寺当院雅史の長女が二月十五日午前三時十八分、長岡市の立川病院



で出生いたしました。奇しくもお釈迦さまの涅槃会（ねはんえ）の日の誕生でありました。おかげさまで母子ともに健在、様子（しょうこ）と命名しました。

I 昭和60年度 鐘楼再建事業特別会計決算書

〔収入の部〕

科 目	決 算 額
門 徒 勸 金	14,548,000
信 徒 懇 志	3,279,000
寺 族 懇 志	1,430,000
落慶法要志納金	1,074,750
預 金 利 息	147,221
計	20,478,971

- ・上記門徒勸金のうち県外分94万円、信徒懇志のうち県外分30万円
- ・鐘楼落慶記念品一式103万3千円は東京幸和建築事務所柏原恵行殿の寄進による。

〔支出の部〕

科 目	決 算 額	摘 要
事務通信費	122,100	趣意書、収入印紙、送料、手数料
会 議 費	116,380	
鐘楼工事費	12,900,000	契約書による
付帯工事費	909,350	撞木、風鐸、銘板、周辺整備
上棟式費	300,975	祝儀、賄、献供、内祝
竣工式費	2,018,925	設計者・請負者謝礼、感謝状
落慶法要費	979,715	境内整備、献花、供物、おとき、記念写真
諸 経 費	185,681	融資利息、諸雑費
計	17,533,126	

・差引残金 2,945,845円は通常勸金会計へ繰入れ。

II 昭和60年度 当 寺 勸 金 決 算 書

〔収入の部〕

科 目	決 算 額
繰 越 金	152,796
過年度勸金	92,000
雑 収 入	28,682
繰 入 金	2,945,845
計	3,219,323

- ・雑収入は預金利息9,282円
- ・本山還付金 19,400円

〔支出の部〕

科 目	決 算 額	摘 要
寺務経常費負担金	332,592	本山護持金ほか
事務通信費	35,994	
会 議 費	53,935	
教 化 費	210,400	御布教・広福寺だより
営繕管理費	212,980	本堂屋根修理、除雪、火災共済
門徒交際費	151,600	見舞・謝礼
(小 計)	(997,501)	
積 立 金	2,000,000	本堂・境内整備基金
繰 越 金	221,822	次年度へ繰り越し
計	3,219,323	

監査報告

上記議案Ⅰ及びⅡの決算書について証票書類を精査の結果、上記の通り相違ありません。
監査委員 武石文太郎・大谷統司

III 昭和61年度 当 寺 勸 金 予 算 書

収 入 の 部		予 算 額
科 目		
勸 金		1,600,000
雑 収 入		15,000
繰 越 金		221,822
計		1,836,822

- ・本年度勸金は門徒1戸当たり8,000円

支 出 の 部		予 算 額
科 目		
寺務経常費		1,600,000
予 備 費		236,822
計		1,836,822

定例各字総代会議決議御通知

去る一月十六日の定例世話方会議、二月三日の会計監査（会計委員木村三千雄殿、監査委員武石文太郎殿、大谷統司殿を選任）を経て、二月七日の定例総代会議で別記のⅠ鐘楼再建事業特別会計決算書、Ⅱ昭和六十年年度勸金決算書、Ⅲ昭和六十一年年度勸金予算書が承

認されましたので御通知申し上げます。大事業の完遂、ひとえに門信徒各位の御懇念の賜物と厚く御礼を申し上げます。なおその他承認された議案は次の通り。
・本堂境内整備基金（二百万円）の積立
・新墓地造成計画（別途会計）の推進
・本年度勸金賦課額（一戸当たり八千円）

門徒各位

・女性講講金賦課額（一戸当たり二百円）
・鐘楼も含め本堂の火災共済の掛金の増額
・本山からの懇請もあり宗派護持のため広福寺、心光寺の寺格昇格を申請
世話方総代 山岸 義正
住 職 柏原 恵信